◆まちづくり地域優良事例集◆

天明まちづくりセンター

加勢川開発研究会

〈取り組みの内容〉

加勢川開発研究会は昭和 30 年後頃から廃れてしまっていた肥後細川流投網を復活させるべく平成元年に発足。中無田地区では、8 月の八朔の時期に田んぼの神様にボラをお供えする風習がありました。8 月第 4 日曜日には、メンバーが集まり四艘の船で「合わせ打ち」と呼ばれる漁法で魚を捕獲し地区の住民へ提供します。
その他の活動内容は小中学校での環境学習、肥後細川流投網の伝承、川遊び体験や河川の清掃活動等を定期的に行っています。

〈取り組みの仲間集め〉

活動の中心となる中無田閘門では、小中学校の環境学習やプレイパークイベント「来て見て遊ばんネ」など様々な PR 活動を行っています。毎月 1 回の肥後細川流投網の練習会では、子ども達が加勢川開発研究会に興味を持ってもらう貴重な機会となっています。

〈取り組みを始めようと思ったきっかけ〉

加勢川、緑川が身近にあった中無田地区。おのずと子どもの頃の遊び場は川でした。近年子ども達が川で遊ばなくなり、川が寂しくなってきたと感じた前会長の井村紘さんが川を活かしたまちづくりがしたいと平成元年からスタートした加勢川開発研究会。現在は会長の田中洋丞さんが子ども達に川の楽しさや怖さを教えています。

加勢川開発研究会
会長　田中洋丞 さん

〈取り組みの意図〉

「子どもに夢を」、「お年寄りにはいきがいを」、「会員にはやりがいを」をモットーに活動しています。子ども達にはお年寄りや先輩が川遊びの面白さ、自然環境の大切さを教え、熊本特有の恵まれた水資源・水環境の大切さを身をもって知るきっかけにもなり、将来にわたって水環境・自然環境の保全に努めてくれると期待しています。

〈今後の展望〉

川に関心を持つ人が増えて欲しいと田中会長。川遊びの楽しさだけではなく、水害や事故などの危険性もわかってもらいたいとの事でした。これからも肥後細川流投網の伝承、後継者の育成や川に親しむ活動を続けていきたいです